

保育場面における幼児の身体的不器用さとその影響

— A 児の観察記録から —

増田 貴人

(島根女子短期大学)

I. 問題と目的

身体的にも知的にも正常域にあるにもかかわらず運動能力が著しく劣っているとき、その幼児は「(身体的に)不器用である (physically awkward)」と称される。身体的不器用さを示す幼児の予後は、これまで一般的には、仮に同年代の幼児よりも発達が遅れていても、成長と共に自然に治るものと考えられてきた。

近年、こうした主張に対し、否定的な見解もある。例えば、幼児期に身体的不器用さを示していた子どもが、後においてもそれから解放されず、学校生活において学習や情緒、対人関係などの深刻な問題を抱えていた (Cantell, et al., 1994)。後に「運動嫌い」になる可能性を示唆する報告もある (深谷他, 2000)。

身体的不器用さは、他者との比較によって問題が顕在化する相対的概念であり、他者との関係性が重視される。したがって、身体的不器用さが日常の保育場面ではどのように影響しているのかを明らかにするためには、身体的不器用さを示す幼児の日常的行為を、多様な他者・他児との複雑でダイナミックな関係の文脈に即して記述し分析する必要がある。

本研究は、身体的不器用さを示す幼児を対象に継続的な参与観察を実施した事例から、その身体的不器用さがその幼児にどう影響しているのか、記述を試みた。

II. 方法

H 県内の某保育園において 1999 年 4 月から 13 ヶ月間、週 1 回午前中に約 2 時間 (計 30 回)、参与観察を実施した。対象児は、身体的不器用さが目立ち担任保育者が「気になる」子どもとして感じていた女兒 A (観察開始時 3 歳 10 ヶ月) である。

観察開始時の A は、観察者の印象では、身体のぎこちなさが目立ち、歩き方や走り方が特徴的であった。いつも全身に力が入っているように、日頃から前傾姿勢であり、足裏全体、いわゆるベタ足で歩く。パズルをつまむような手先の細かい動きも得意ではない。担任保育者によれば、身辺処理に関する援助はほとんど必要がないが、衣服の着脱にはときどき困難がある。また、ぼんやりしていることが多く、いじめの対象になることもある。落ち着いたときには、自分の思いをことばで表現でき、難解な語もいくつか知っている。

担任保育者は A について、「他の子どもと比べてどこかちがうような気がしている」「もし障害があるのならばどのような援助がよいか知りたい」と考えていた。

III. 結果と考察

観察記録の中から、A に関する特徴的なエピソードを抽出し、それぞれに解釈や検討を行った。

保育室で A が E と並行してブロック遊びを始める。

保育者 : 「Eちゃん、なにつくっているの?。」

E : 「青のね、ゴーゴーファイブ。」

保育者 : 「ゴーゴーファイブのひこうき。」

E : 「うん。」

話に割り込むように、

A : 「Aね、カメラつくってるんよ。」

保育者 : 「そう、カメラつくってるの。」

A児 : 「そうよ、つくって。」

保育者 : 「Aちゃん、かっこいいの、つくって。」

A児 : 「つくって。」

【①:1999年7月】

A は、身体の動きがぎこちなく、走る様子がギャロップ状だったり、階段の昇降が滑らかな動きではない様子が特徴的であった。指先の細かい動きがなめらかではない様子がしばしば観察されている。ただ、折り紙やブロック、積み木のような構成を含む遊びは好んでよく遊んでいたが、苦手にもしており、自分でつくらず保育者や観察者に頼ろうとする姿がしばしば観察された。その際 A は、例えば、ブロックのピースを組み合わせずに遊んだり、折り紙を始めても途中でやめてしまっていた。

A、新しい紙をもらって席に着く。

A : 「(紙をみせて)みて。」

観察者 : 「こんどはなに作るの。」

A : 「しゅりけん。あのね、A、つくれるんよ。」

一枚の紙をちぎったり丸めたりしている。しばらくして、

A : 「やぶけちゃった」

保育者 : 「Aちゃん、できた?」

A : 「できん、つくって。」

保育者 : 「Aちゃん、もうせんの。」

A児 : 「もうせん。つくって。」

【②:1999年11月】

エピソード②のように、当時クラスで流行していた「ひこうき」や「しゅりけん」の折り紙を、A が新聞

紙で制作しようとする場面がしばしば観察されている。「ひこうき」はクラスのほぼ全員がつくることができ、「しゅりけん」もつくることができる子どもも少ないがいる。そのようななかで、A はどちらも折ることができない数少ない子どもであった。A は、紙をちぎったり丸めるなど、本来の手順にはない動作をしていることから、角をそろえるような折り紙のスキルができていないことがうかがえる。クラスの幼児のほとんどが完成させられる作品を、結局完成には至らず保育者に依存する姿勢が観察されたが、これは身体的不器用さに伴って二次的に引き起こされた、自信のなさという心理的問題であると考えられる。これは、Shaw, et al. (1982) も同様に報告している。

ところでエピソード①では、A 児の発話が、したいこととしてほしいこととで混同し、保育者とのコミュニケーションが噛みあっていないようにみえる。このような不自然な会話は、A に限らずクラスの他児にもときどきみられたことであった。しかし、保育者が A 児に関しては「どこかちがうような気がしている」と感じていたのはなぜなのだろうか。A の示していた身体的不器用さは、可視的で比較的明白なわかりやすい特徴となっていた。推測するに、それが、保育者の「気になる」程度をさらに増幅させているシンボルとなっているためではないだろうか。

一番低い鉄棒の下にタイヤが置いてある。A, D, Y, W (いずれも女児) が鉄棒遊びをしている。

A : 「ねえねえ、みて。」

観察者 : 「どうした？」

A : 「みて。えいっ。(と、鉄棒を支えにタイヤの上から飛び跳ねるように下りる。)」

観察者 : 「おおっ、Aちゃん、跳んだ。」

A : 「みてよ。えいっ。(再び跳ぶ。)」

観察者 : 「すごいね。」

Y : 「ねえ、おじさん。(と鉄棒で前回りする。)」

観察者 : 「うわ、Yちゃん、上手だね。」

A : 「ねえ、Aもみて(とタイヤから下りる。)」

Y : 「それくらい、できるよ。」

W : 「おじさん、みて。(と鉄棒を脇で挟んで足を浮かせ、20秒前後持続させる。)」

観察者 : 「すごいな。Aちゃんもできるかな？」

A : 「できるよ。みて。(とWと同じ姿勢をとる。)」

観察者 : 「おっ、すごい。よし、1, 2, 3, 4, 5・6…(5以降速く)・28・29・30。30もできたよ。」

A : 「もう1回。(再び挑戦する。)」

W : 「1, 2, 3…, 9, 10。こんどは10だったね。」

A : 「もう1回、みて。(またも挑戦する。)」

【②:1999年11月】

A は、その身体的不器用さによって動きがぎこちなく、そのために他者に認められるような経験が比較的

少ないと考えられる。エピソード③での A の動きは、他児にとっては非常に簡単にできることであり、A もそのことを雰囲気察していたと推測される。だが、タイヤから跳ぶことをほめてもらったり、他児の前で自分の行為を披露できることは、自分の行為を他者に認めてもらえる数少ない機会であり、A にとって嬉しいことである様子がみてとれた。さらに A は、わずかのほめことばで、苦手な活動でも他児を意識することなく遊んでいた。それは A が、自信をもって取り組んでいるようにみてとれた。

このときの観察者の働きかけは、担任保育者の実践を妨げないようにする意図があり、場面や状況に応じて返したにすぎない。また観察者は、保育者のように毎日のように接することができる立場にもなかった。しかし A は、苦手な活動に対して、積極的であった。鯨岡 (1997) は、子どもと養育者とのコミュニケーション関係において、他者に関心を向けることの根元に「整合希求性」がある、と述べている。それは、自分が関心をもつ特定の他者に対して「いつも、すでに、おのずから」関心をもってしまうということである。A はこれまでクラスの中の保育者と園児という限られた関係のなかにあった。そこへ外部の観察者が存在するようになったため、観察者が現前することによって満たされる「整合希求性」が喚起されたのではないだろうか。つまり観察者の働きかけは、その「整合希求性」を利用したものすぎないものの、結果的に A の積極性を後押しする一助となっていたように思われる。

IV. まとめ

A は、身体的不器用さが目立ち「気になる」子として指摘されたが、観察の結果からは、明白な障害があるとはいえず、正常な発達の範囲で捉えられるものであろうと考えられる。

A には、その身体的不器用さによって、動きのぎこちなさという身体的問題の他に、自信の低さという情緒的問題が生じていたことがうかがわれた。また A の身体的不器用さは、保育者が A に対する「気になる」の印象をさらに増幅させるシンボルとなっていたことが示唆された。

A の身体的不器用さは、A が意図していないにもかかわらず、身体的に情緒的に、そして対人関係にぎこちない状態をつくりあげ、A 児に「不器用」な生活を強いてしまっていた。だがその改善には、クラスの保育者のかかわりはもちろん、それだけではなく、常時接していない者でも情緒的側面の解決には、正の影響が期待できることが示唆された。